

北区の部屋だより

第46号

2013年5月



刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 25 年 5 月発行

北区こぼれ話 第45回

昭和17年春、 赤羽上空に米軍機あらわる

昭和17年（1942）4月18日土曜日の正午過ぎ、防空演習中の東京に、突如、米軍機が現れました。そして、東京初の空襲が始まりました。パイロットの一人は、東京までの途中で、日本の子どもたちが手を振っていたと書いています（『東京奇襲』テッド・ローソン著、野田昌宏訳）。まさに、日本にとって、青天の霹靂だったのです。被害があったのは、王子区、荒川区、小石川区、品川区、牛込区、淀橋区などです。翌日の『東京朝日新聞』は、隣組による「沈着冷静機敏」な消火活動を報じています。実態は逆で、消防庁の記録には「都民は初空襲に虚を衝かれ防禦に狼狽し、留守宅等より一帯火災発生す」（『東京都戦災誌』）とあります。

王子区では、国鉄赤羽火力発電所（現、北清掃工場）煙突の上を西から東へ、一機の米軍機が、ゆっくり低空で飛んで行ったそうです（北区総務課編『真赤な空は忘れられない』掲載、田野英雄氏の手記）。被災箇所は、現在の住所で赤羽南一丁目にあたります。赤羽駅の南東方向です。陸軍被服本廠の寄宿舎に使われていたアパートとその付近が焼け、重傷1名、全焼5戸、半焼2戸という被害がありました。近隣の区では、荒川区尾久町で10名が死亡し、43戸が全焼しました。東京全体で、39名が死亡、全焼92戸、全壊29戸などの被害がありました（『東京大空襲・戦災誌』3、東京空襲を記録する会）。

この空襲は、隊長の名前から、ドゥリットル爆撃隊の名で知られています。作戦には、真珠湾攻撃に対する報復の意味があり、奇襲というだけでなく、奇策でもありました。米海軍の空母から、16機の陸軍爆撃機B25を発進させたのです。しかし、B25は、空母で運用するように設計されていません。中国軍（蒋介石軍）の飛行場まで飛び、着陸する必要がありました。爆撃隊は、東京・川崎・横浜・横須賀・名古屋・神戸などを空襲したものの、中国上空の悪天候により16機すべてを失いました。乗員の多くは、不時着や落下傘降下により助かりましたが、命を失ったり日本軍の捕虜になった者などもありました。

一方、日本の軍部は、突然の帝都空襲で、大いに面目を失いました。『大本営機密日誌』（種村佐孝陸軍戦争指導班長）の記述には「信を天下に失う」とあります。軍は、9機の米軍機を撃墜したと発表しましたが（実は0機）、撃墜された機体を見た者はなく、キューキ（9機）撃墜ではなくクウキ（空気）撃墜ではないかとささやかれる始末でした。『戦史叢書 ミッドウェー海戦』（防衛庁）には、この東京初空襲が、太平洋方面での戦線の拡大を大本営に決意させ、ミッドウェー海戦の実施を促したとあります。

戦後3度にわたって編集された『北区史』は、この空襲に触れていません。区内では死者が出ず、火災も比較的小さかったためでしょう。文字どおり、区史から「こぼれた話」です。しかし、米軍が、東京初の空襲で、赤羽や尾久をターゲットに選んだことは重要です。軍の工場が集中した王子区や、二つの国鉄操車場があった滝野川区について、当時の米軍の認識を明らかにすることは、今後の課題と言えるでしょう。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

今月の展示

本に描かれた北区

～区民著作コーナーって面白い!!～

期間:4月26日(金)～5月22日(水)

場所:北区の部屋 企画展示コーナー

北区立中央図書館には、現在の北区民の方、かつて北区に住んでいた方などの著作を集めた「区民著作コーナー」があります。そこに並んでいる本は、小説短歌といった文芸作品から、自然科学系の研究書まで、その内容は様々ですが、なかには、自分が生まれ育った地域のこと、自らが体験した懐かしい思い出を記しているものも少なくありません。そこで今回の展示では、区民著作コーナーに配架されている本を中心に、本に描かれているさまざまな北区の風景を紹介します。



北区図書館活動区民の会地域資料部会 企画・運営／北区立中央図書館 主催

北区立中央図書館 歴史講演会

北区思い出写真館 ～変わりゆく「ふるさと北区」の風景～

古い写真に映し出されている北区の風景。懐かしい風景を地域資料専門員が解説するとともに、当日はゲストの北本正雄元区長を交えて、当時の北区の様子を語りあいます。

日時:6月9日(日)午後2時～4時

場所:中央図書館(赤レンガ図書館)3階ホール

講師:黒川徳男地域資料専門員

定員:60名(中学生以上。抽選。)

申込:往復はがき 講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)

年齢・電話番号(Fax番号)、返信面には住所・氏名を記入。

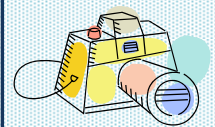
※視覚障害のある方は電話申込可。聴覚障害のある方はFAX申込可。

※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

しめ切:5月24日(金)必着

申込先・問合せ:北区立中央図書館事業係 ☎03-5993-1125

〒114-0033 北区十条台1-2-5 Fax03-5993-1044



シリーズ 古老が語る北区1『北区を想う』(北本正雄氏述)を発売!

「北区の生き字引」北本正雄氏(元区長)の口述筆記が本になりました!北区図書館活動区民の会地域資料部会では、古老の皆さまから、北区の歴史についての聞き取りを続けています。その成果の第一弾として、本書が中央図書館から発売されます。

北区の図書館で貸し出しするほか、5月13日(月)から中央図書館・北区役所第一庁舎(1階)区政資料室にて定価1,000円で販売します。



北区の部屋だより

第47号

2013年6月



刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 25 年 6 月発行

北区こぼれ話 第46回

「北区の部屋」にある千両箱

せんりょうばこ

小判

突然ですが、みなさんは江戸時代の千両箱を見たことがありますか。時代劇などにも登場するので、すぐにそのかたちを思い描くことができる人も多いでしょう。そう、右の図のようなかたちです。そして、すぐに図のようなかたちを思い浮かべることができた方……………時代劇の見過ぎです。



と、まあ冗談はさておいて、実は、江戸時代の千両箱は写真のようなかたちをしています。何だ、この細長い箱は？とお思いでしょうが、これが千両箱です。どこにも「千両箱」とは書いていません。写真の実物は、現在「北区の部屋」の作業室にあります。



北区の部屋の千両箱

では、何故、千両箱が図書館にあるのか。今日は、そのお話を少し…。

北区の場合、区内で所在が確認された江戸時代の古文書などは、中央図書館「北区の部屋」へと運ばれ、そこで図書館および飛鳥山博物館の両館が協力して整理、調査を進める体制が採られています。そのため、「北区の部屋」の作業室や重要文書庫には、多くの古文書が保管されているのですが、現在主流となっている古文書整理の方法は、そうした古文書が、どのような容器に、どのような向きで、そしてどのような順番で入れられていたかなど、保存状況を丹念に記録しておくことが不可欠とされています。そのため、古文書が入っていた容器も大切に保管されているのです。



ここで紹介した「北区の部屋」の千両箱は、^{こう ゆきょう いとな}絞油業を営み、滝野川村の村役人を勤めていた^{と べり}戸部家に伝わるもので、同家の古文書がここに詰められていたのです。単に、江戸時代の千両箱というのでしたら博物館の資料になっていくのかもしれませんが、現在のところ、戸部家文書が収納されていた保存容器として「北区の部屋」の作業室にあるのです。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

北区の部屋
今月の展示

写真で振り返る バブル時代の北区

1980年代から90年代前半に区内で撮影された写真を展示します。
バブル景気の中で変わっていった区内の様子をご覧ください。

期間:5月24日(金)～6月26日(水)
場所:北区の部屋 企画展示コーナー



昭和62年頃の赤羽駅
立体交差化の前



昭和60年の王子駅前

北とぴあの姿はない



今月の講演会

北区図書館活動区民の会地域資料部会・企画運営
中央図書館・主催

北区思い出写真館

～変わりゆく「ふるさと北区」の風景～



日時:6月9日(日)午後2時～4時

場所:中央図書館 3階ホール

講師:黒川徳男地域資料専門員

ゲスト:北本正雄元区長

※お席に若干の余裕があります。

参加ご希望の方は、中央図書館事業係へご連絡下さい。

☎03-5993-1125

Fax03-5993-1044



図書館の地域資料として利用する、昔の北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。

北区政策提案協働事業

「映像アーカイフによる街おこし」とは？

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に、地域団体（街づくり・フロンティア21）と区（図書館・博物館）が協働で行う事業です。

発掘したフィルムのうち北区の昔の風景や風俗が映っているものを編集、DVDに変換後、北区立図書館の地域資料として受入れ、貸出していきます。

皆さまのご協力をお願いします。

【連絡先】

街づくり・フロンティア21

北区赤羽 1-7-9 赤羽 Mets ビル 7F

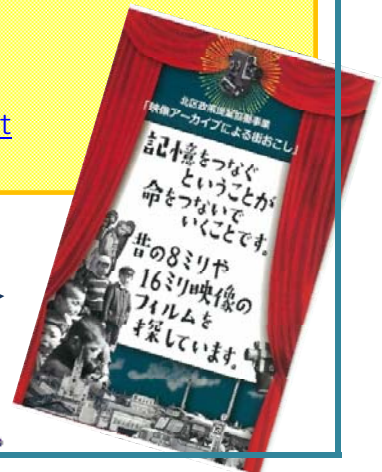
☎03-3903-1171

メール:

info@frontier21.jp.net



説明パンフ
レット
配付中!



懐かしい写真がいっぱい!

北区の部屋だより

第48号

2013年7月



刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 25 年 7 月発行

北区こぼれ話 第47回

れんが など お たび からみ煉瓦の謎を追う旅



からみ煉瓦の塀

区内を歩いていると、こげ茶色の四角い石のようなものが、塀や土止めなどに使われているのを見かけます。表面には、墨を流したような模様があります。これらは、からみ煉瓦と呼ばれています。からみは「鰯」と書きます。

『広辞苑』は、鰯について「鉛石を熔錬する際に生ずる滓（かす）。一般に珪酸塩からなる。スラグ。」と説明しています。区内では、豊島にあつた日産化学からもらってきたという話をよく聞きます。

からみ煉瓦は、都心でも見ることができます。新橋駅から、飲食店が集まる通りを 10 分ほど歩いたところにある新橋住友ビルです。エントランスの敷石に使われています。説明版によれば、愛媛県四国島銅精錬所で自家用に製造されたもので、主成分は鉄 40～50%、珪酸 30～40%とあります。からみ煉瓦は、銅の製造の副産物ということです。



新橋住友ビル玄関付近



足尾の通洞駅
ホーム

銅といえば、西ヶ原に住んでいた古河市兵衛は、栃木県で足尾銅山を経営していました。足尾銅山観光の最寄駅は、わたらせ渓谷鐵道（旧国鉄足尾線）の通洞駅です。休日に、人気のトロッキ列車で出かけてきました。通洞駅に着いてみると、ホームには、からみ煉瓦が使われていました。これに限らず、足尾では、多くのからみ煉瓦が建材として利用されています。

話を区内に戻しましょう。『足立史談』160 号（足立区教育委員会）に、大久保幸治氏の「鰯煉瓦の話」という記事が掲載されています。そこに、からみ煉瓦についての大久保氏の問い合わせに対する、日産化学の回答が載っています。それによれば、日産化学王子工場（明治時代は関東酸曹）では、日露戦争下に、銅の軍需が増大したことを背景に、硫酸製造後の含銅硫化鉛滓から銅を精錬したそうです。その滓を型に入れて長方形に固めたものが、からみ煉瓦だということです。銅の精錬は、日露戦争後の不況で中止したとあります。この回答によれば、区内のからみ煉瓦は 100 年以上前のものとなります。『豊島区立郷土資料館だより かりべ』61 号によれば、豊島区にも、からみ煉瓦が分布しているとのことで、この回答を引用しています。

その一方で、からみ煉瓦について、昭和のこととして話される区民もいらっしゃいます。大日本人造肥料株式会社（日産化学の前身）『五十年史』や、戦後に日産化学が発行した雑誌で確認したところ、昭和の戦前から戦後にかけて、王子工場では銅を主成分とした農芸用殺菌剤「王銅」を生産しています。ただし、この王銅が、からみ煉瓦と関係あるのかは不明です。路傍に転がるからみ煉瓦ですが、調べてみると奥が深そうです。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

北区の部屋今月の展示

とうえいざん かんえいじ 東叡山寛永寺と北区の村々

期間 6月28日(金)～7月24日(水)

場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

江戸周辺に1万石以上という大名並みの領地を有していた上野寛永寺。北区の村々では、8つの村(赤羽根・稲付・十条・豊島・中里・田端・梶原堀之内・船方)が寛永寺の領地でした。

今回の展示では、こうした寛永寺領の村々と領主寛永寺について紹介します。



とうえいざん かんえいじ さくら みね さんのう やしろ
東叡山 寛永寺 桜の峰山王社

(江戸名所図会より)

地域資料 新着案内

タイトル	著者・編者	出版社
滝野川村戸部家文書調査報告書	北区飛鳥山博物館事業係	北区飛鳥山博物館
北区子育てガイドブック	北区子ども家庭部子育て支援課	北区子ども家庭部子育て支援課
東京凸凹地形案内2	今尾 恵介/監修	平凡社
東京鉄道遺産	小野田 滋	講談社
北区人口推計調査報告書	北区政策経営部企画課	北区政策経営部企画課
すぐわかる地図東京		JTB パブリッシング
予算特別委員会会議録 平成25年	北区議会	北区議会
東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書 平成24年度	東京都産業労働局雇用就業部労働環境課	東京都産業労働局雇用就業部労働環境課
東京都の公園緑地マップ	東京都建設局公園緑地部計画課	東京都建設局公園緑地部計画課

北区政策提案協働事業

「映像アーカイフによる街おこし」とは？

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に、地域団体

(街づくり・フロンティア21)と区(図書館・博物館)が協働で行う事業です。

発掘したフィルムのうち北区の昔の風景や風俗が映っているものを編集、DVDに変換後、北区立図書館の地域資料として受入れ、貸出していきます。皆さまのご協力をお願いします。

【連絡先】

街づくり・フロンティア21

北区赤羽 1-7-9 赤羽 Mets ビル 7F

☎03-3903-1171

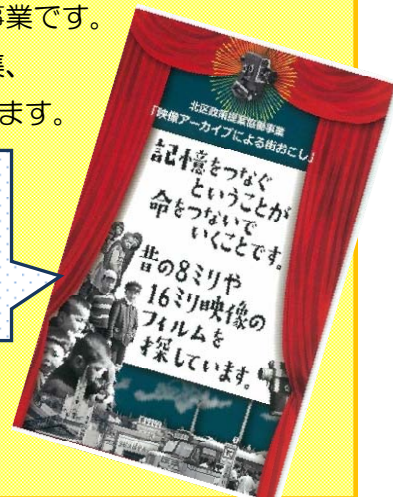
メール：

info@frontier21.jp.net



図書館の地域資料として利用する、昔の北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。

説明パンフレット
配付中！



北区の部屋だより

2013年8月



第49号

刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 25 年 8 月発行

北区こぼれ話 第48回

村人おすすめの宿は?! ～「道中日記」の一側面～

みなさんは、この夏どこかにお出かけの予定はありますか？初めての場所への旅行ともなれば、期待が膨らむ一方でやはりどこかに不安もあったりして。でも、そんな時によく知った人が情報をくると、不安ながらもどこか安心感が生まれるのではないのでしょうか。

さて、江戸時代のお話し。文化8年（1811）、下村の佐兵衛ら7人は伊勢参宮を行い、その後、西国三十三所の札所巡礼、讃岐金毘羅に参詣し、帰路には信濃善光寺に詣でるという約4ヶ月の大旅行を行いました。この旅行について、佐兵衛は「伊勢道中日記控」（富田家文書）という記録を残しているのですが、実はこの日記、自らの行動を記しただけのものではないのです。例えば、新宮（和歌山県新宮市）に宿泊した2月15日の記載では、実際に泊まった宿（灯燈屋次左衛門）について「灯燈屋は御無用に候」と宿泊先としてお薦めしない旨を記し、加えて「新宮に御泊まり成られ候はば、鳥居きわに宜しき宿あり」と、もっといい宿があったことを書き添えています。同様に3月22日に宿泊した今津（滋賀県今津町）でも、



「くらや作右衛門と申す宜しき宿あり」と、他に良い宿があったことを書き留めています。逆に、2月16日に昼食をとった宇久井（和歌山県那智勝浦町）の檜木田定四郎のところは大満足だったので「宜しき宿なり」とあり、中山寺（西国24番札所、兵庫県宝塚市）前で昼食場所となった「かもや」についても「大にて馳走あずかり」と記しています（閏2月17日※）。このように、この日記では、自らの体験や現地で得た知識を次に旅する者へと申し伝える記述が数多く見受けられるのです。

北区で確認できる道中日記の全てにおいて、こうした詳しい申し送り事項が記されている訳ではないのですが、道中日記に、後に利用されることを想定した実用書という側面があったことは紛れもない事実だと思います。こうした先人たちの経験を踏まえて、次の旅行者はより快適な旅を楽しんでいったのです。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

※閏月については、「こぼれ話」第44話をご覧ください。

戦争中の発明展覧会

期間 7月26日(金)～8月21日(水)

場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

昭和18年(1943)宣伝科学研究所が制作した「生産増強ト発明考案移動展覧会」の一部を再現します。戦争と平和について、より深く考えていただくための一つの材料として展示します。



資料提供 日時計(北区女性史グループ)

北区平和祈念週間が開催されます

北区平和祈念週間イベントが8月6日(火)～8月8日(木)、赤羽会館及び北とぴあで開催されます。

図書館では、平和祈念週間に関連して「平和図書コーナー」を設け、平和について考えるきっかけとしていただきたいと思います。

「平和図書コーナー」：中央・滝野川・赤羽図書館にて

「子ども向け平和図書コーナー」：北区立図書館全館にて

開催期間：7月26日(金)～8月31日(土)

(休館日を除く)



北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街おこし」

「地域フィルム発掘ボランティア養成講座」

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを写した8ミリ・16ミリフィルムを発掘し、撮影者に当時のお話を聞き、映像資料としてまとめる作業を行う「区民ボランティア」を養成する講座です。フィルムの専門知識は必要ありません。

日時：8月31日(土) 午後2時30分～4時30分

場所：北とぴあ 8階 805会議室(王子1-11-1)

講師：北区飛鳥山博物館学芸員ほか

対象：区内在住の方

定員：16名(抽選)

申込：往復はがきまたはEメール

住所・氏名・年齢・連絡先

(電話・Fax番号、Eメールなど)

しめ切：8月23日(金)必着

【申込先】

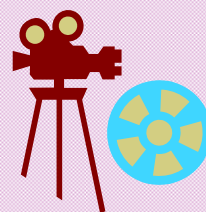
街づくり・フロンティア21

〒115-0045 北区赤羽 1-7-9 赤羽 Mets ビル 7F

☎03-3903-1171

メール：info@frontier21.jp.net

情報をお寄せ下さい。



昭和60年(1985年)以前に撮影されたと思われる、北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。みつかった北区の映像はDVD変換後、図書館で公開していきます。

北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街づくり」とは、失われつつある北区の昔の風景などを発掘・公開することを目的に地域団体(フロンティア21)と区(図書館・博物館)が協働で行う事業です。

詳しい説明パンフレット配布中!



北区の部屋だより

第50号

2013年9月



刊行物登録番号 24-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 25 年 9 月発行

北区こぼれ話 第49回

80年前の上中里駅は 「タクシーが着かぬ駅」



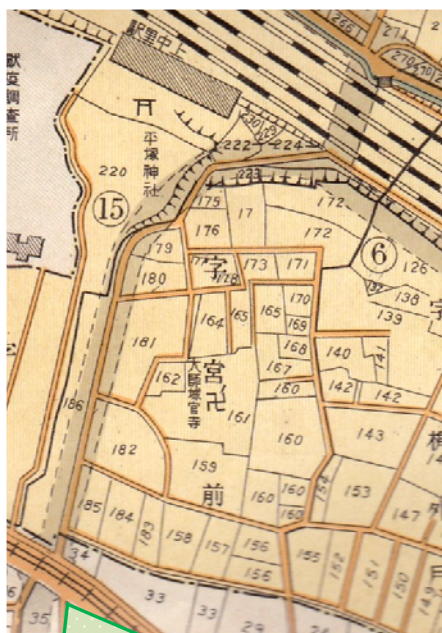
かみなかざと
上中里駅は、今年で80歳です（昭和8年（1933）7月1日開業）。
現在、右に示した開業80周年記念スタンプが駅改札内に置かれています。
開業時に植えたという銀杏の木と旧駅舎が描かれています（銀杏については『北区の交通』参照）。

この駅の設置を求める運動は、大正15年（1926）から始められました。約8年間にわたる住民の悲願が実って置かれた駅です。駅の用地は、地元の皆さんが用意しました。滝野川町が5000円を補助したほか、有志の寄付によって土地を買収し鉄道省に寄付したのでした（『滝野川町誌』）。駅名については、当時の『東京朝日新聞』（昭和8年2月22日）によれば、計画段階では中里駅でした。住民の意向で上中里駅になったようです。



開業80周年記念
スタンプ
（JR東日本承認済）

開業当初、この駅には重大な問題がありました。改札口は、今も昔も、西側の台地の上に一つだけですが、当時の自動車（クラシックカーを想像して下さい）にとって、そこへアクセスする道路は細すぎたのです。現在は、西ヶ原の本郷通りから平塚神社の脇を降り駅に至る立派な道路があります。この道路が完成したのは、昭和15年（1940）のことでした。それまでは、曲がりくねった細い坂道があるだけでした。雨が降れば、ぬかるんだと言います。「東京市内でタクシーが着かぬ駅」という記事が新聞に載ったこともあったそうです（林良高「上中里周辺の今昔」『滝野川』4）。自動車での到達が不可能という意味では、近年ブームの「秘境駅」の定義にも当てはまります。



『東京市滝野川区全図』
（大正毎日新聞社、昭和8年）
計画中の道路が点線で描かれています。

昭和8年（1933）の地図で確認してみると、現在の道路は「道路計画線」として描かれています。駅が設置された昭和8年の段階で、すでに駅へのアクセスの改善が計画されていたのです。この道路建設を今に伝えるものとして、駅のすぐ近くの西方不動尊境内に、小さな道路建設記念碑があります。

昭和15年の道路建設
記念碑（西方不動尊境内）。



【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】



This is the 『北区ニュース』

期間：8月23日（金）～

9月25日（水）

場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

時代は高度経済成長期。1960年（昭和35年）4月25日に『北区ニュース』の第1号が発行されました。あれから50年、通号で1400号を超えた現在でも、区政の歩みをみなさんに伝え続けています。

そこで今回の展示では、みなさんよくご存じの『北区ニュース』を取り上げ、その歴史を振り返るとともに、そこに描かれている区政の歩みを追ってみたいと思います。



北区音頭(CD)が入りました！

読者の皆さまは「北区音頭」をご存知ですか？町内の盆踊りなどで、聴いたり踊ったりした方もいらっしゃるかもしれません。

利用者の方から「北区音頭」の音源を探しているとのお問い合わせをいただいたのをきっかけに、探したところ北区役所広報課が所有していることが判明し、作成者（北区新聞社）の許可も取り付けてもらうことが出来、このたび北区の部屋で貸し出しが出来る事になりました。

古い音源を複製しているので、雑音が多く入っていますがご勘弁くださいね。



「北区の部屋」では、このような地元ならではの「音声」なども貴重な地域の情報として公開していきたいと考えています。地域で作成した音頭や歌などの音源がありましたら、ぜひ一報ください。



北区新聞社に「北区音頭」について、お聞きしました。

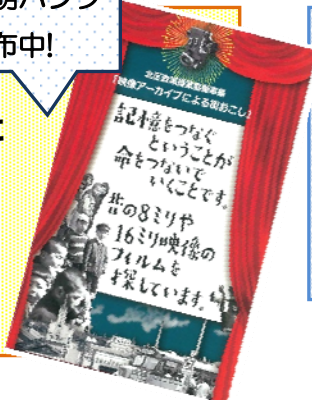
「北区音頭」は昭和27・8年頃の作成で、作詞は池田誠さん、作曲は玉山英光さん。北区新聞社がキングレコードに頼んでレコード化しました。唄っているのはキングレコードの専属歌手だった若原一郎さんと照菊さんで、当時はまだ新人歌手だったそうです。

また日本舞踊の先生をされていた王子本町在住の山口さんという方が振付けた踊りもありますが、それがわかるものが残っていないのが残念だとおっしゃっていました。

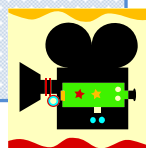
情報をお寄せ下さい。

詳しい説明パンフレット配布中！

北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街づくり」とは、失われつつある北区の昔の風景などを発掘・公開することを目的に地域団体（フロンティア21）と区（図書館・博物館）が協働で行う事業です。



昭和60年（1985年）以前に撮影されたと思われる、北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。みつかった北区の映像はDVD変換後、図書館で公開していきます。



後記

「北区の部屋だより」をご愛読いただきありがとうございます。

おかげさまで「北区の部屋だより」も今回で50号を迎えることが出来ました。

これからも北区の歴史に関するエピソードや楽しい話題をお届け出来るよう、「北区の部屋」担当一同がんばってまいります！